

シリーズ

## キラリと光る！ 躍動する水団連会員

各地で活躍される水団連会員2社にスポットライトをあて、歴史、沿革、企業理念、主要な製品・技術などを紹介します。

第21回

## 株式会社北川鉄工所

＝滋賀県彦根市＝

## ○「三方よし」を貫いて業界シェアNo.1に

滋賀県彦根市に本社を置く株式会社北川鉄工所は、1961年に北川武夫氏が操業を開始し、1965年から現在の主力製品でもある「地上式消火栓」の製造・販売を開始。近江商人の「売り手」「買い手」「世間（社会）」よしの精神とともに、地上式消火栓の分野で業界シェア80%を超えるトップメーカーに成長した。2021年5月に創業60周年を迎えた北川鉄工所を当連合会の森岡専務理事が訪問し、北川茂樹社長に同社をご紹介いただいた。



北川社長（左）と森岡専務理事（右）

## ○考え、動き続ける専門メーカーのプライド

地上式消火栓が持つ安全性や多様性などへのアピール度は高く、クライアントが求めるニーズに適した製品を提供できるのも専門メーカーとしての魅力の一つと北川社長は言う。この魅力を発揮するために創業当時より大切にしていることがある。それは現場に「足を運び」、「耳を傾け」、「カタチにする」ことがメーカーとしての役割であるという考えで



北川茂樹社長

ある。この考えが結実し、1989年には業界初のフッ素樹脂塗装を施した地上式消火栓を開発。鋳物素材の上に金属表面処

理を施すことで、従来の色あせや錆びという弱点を克服したものであり、国内での地上式消火栓のシェアを拡大していく転機にもなった。このクライアントとの関係づくりの精神は現在も脈々と引き継がれている。

## ○共同開発推進のきっかけは世界遺産から

確かな技術力と他社にはないオリジナリティを持つ製品を確立した同社は、クライアントとの共同開発事業にも注力していった。そのきっかけが2002年に放水銃の地下部消火栓を日光東照宮などと共同開発したことである。「打合せから1週間後に試作品を持って行く小回りの良さや、文化財の景観を守る地下格納式の技術、消火栓内面が錆びず赤水を出さない技術などが認められました。」と北川社長。この実績が評価され、近年は官公庁との共同開発が増え、防災意識の高まりに合わせて消火栓だけでなく、給水栓に関する共同開発にも力を入れている。

仙台市と共同開発した緊急時給水車用給水栓や、青森市と共同開発した工具不要で設置



共同開発の歴史を語る北川社長（左）と森岡専務理事（右）

でき、製品同士を直接連結できるスタンド型の「応急給水栓」なども災害時資機材として製品化された。さらに、スタンドパイプの破損事故を踏まえ、横浜市と共同で開発した製品は耐久性と安全性が改善され特許を取得している。

北川社長は、「時代の流れに合った様々なニーズを的確に捉え、社会に貢献できる製品を生み出すことが大事なことだと考えています。」と語る。

#### ○社員のために、社会のために

同社では社内のDXを推進するためのプロジェクトチームをつくり、業務の効率化や社員の負担軽減など、社内体制の強化を目指している。また、事業継続力強化計画を策定し、

災害や事故などの緊急事態においても迅速に対応し、クライアントに影響がでない体制づくりも行っている。

さらに、SDGsへの取り組みとして、経年劣化した製品のオーバーホールやメンテナンスを通じて、製品の長寿命化や廃棄物の削減にも努めている。2025年に完成予定の同社新工場では、再生可能エネルギーの利用を検討するとともに、敷地内に各種給水栓を常備して、災害時には近隣自治体の給水タンク車の給水拠点や、地域住民の方の臨時給水所として利用できるなど地域貢献にも力を注いでいる。

北川社長は「消火栓・給水栓の専門メーカーとして、消火活動や自然災害時の救援活動を支えるための信頼される製品を提供し、多くの方々の安心な生活に貢献する企業となるこ



2025年新工場完成予定図

とを今後も目指していきます。」と締めくくられた。